

平成23年度 国有林モニターアンケート結果概要 (国際森林年・生物多様性パンフレット等)

対象者：全国有林モニター

国際森林年や生物多様性をテーマに作成したパンフレットに関するアンケートを実施したところ、以下のような回答が寄せられました。

設問 配布した参考資料について

問1 「—国際森林年のテーマ『森を歩く』森林の魅力」に対する意見、感想

【主な意見】

(良かった点、印象に残った点)

- ・以前の資料に比べてわかりやすい、教材としてもとても優れている
- ・健康や教育への効果は新しい観点
- ・写真が多くて楽しく、説明文もポイントに留めるなど簡潔
- ・山が写真入りで紹介されているのでとても参考になる
- ・資料にある箇所を少しでも多く回ってみたい
- ・森林がいかに密接に関係し必要であるかがよくわかった
- ・3つの森林帯など九州の自然の豊かさを改めて知った
- ・シカ対策は大変な仕事だと思う
- ・冊子を用いたり現地の人に人を誘うなどして森林の良さを伝えていきたい

(悪かった点、改善点)

- ・写真が少し暗い、小さい。説明文や空白部分を縮小して大きくして欲しい
- ・裏表紙の地図に最後まで気づけなかったのも、掲載場所を冒頭で示してもよい
- ・凡例に漏れや書式が不統一な箇所がある
- ・各資料の出典や観光情報が載っている URL(書物よりも便利)を記載すると便利

(その他、広報、要望等)

- ・林野庁はPR下手と思っていたが、このパンフの出来は非常によい
- ・よい資料なのに、配布数が少ないことが残念
- ・公共の図書館や学校の図書室にもコーナーを設けてもらいたい
- ・観光業者や地域イベントと連携するなど関心を高める必要がある
- ・国際森林年がテーマなら、関連行事や他国の森林も紹介してほしい
- ・木炭づくりやバイオマス発電のことも入れてほしい
- ・心肺機能が弱い者でも森に親しめるコースがあればよいと思った

【総括】

パンフレットの構成や内容に対して、見やすい、読みやすい等多くのモニターから好評を得た。パンフレットの内容については、温暖化防止等に加え、森林浴など健康増進面について新たな知見を得たというコメントが多かったです。

一方、配布数の少なさなど広報の手段については課題視する声が多く、配布手段としては、自治体の窓口など公共機関を通じた配布を求める声が多かったです。

多くのモニターが、記載されている森林に出かけたいという意志を示した一方、より多くに人々からの積極的な参加を更に促すためにも地域行事や観光業との連携まで含んだ取組の必要性についても声が聞かれました。

問2 「森の恵みと危機 九州の生物多様性」に対する意見、感想

【主な意見】

(良かった点、印象に残った点)

- ・写真を多用するなど、読むのではなく見せようという点が良い
- ・森林があることによる生物多様性の恵みや人間との関わりについてよくまとまっている
- ・森林の適切な管理が生物の活動に不可欠と認識を深めた
- ・人工林が天然林の倍近く二酸化炭素を吸収できることを知った
- ・外来種も鳥獣害も命のある生物のことなので、うまく共存できないかと思う
- ・シカ害については、農業同様今後の課題と思うし、捕獲の取組も歓迎する
- ・経営が成り立つ最大限の努力をしないと森林の危機的状況は増大すると思う

(悪かった点、改善点)

- ・図や写真がごちゃごちゃしていて、あれもこれもという感じがする
- ・誰に対しての冊子なのかわからない
- ・今のままでは宣伝不足。配布範囲を広げる必要がある
- ・「森の魅力」と重複している箇所もあるので、統一して予算節約を図ってはどうか
- ・被害状況についてもグラフ等で視覚的に表現してほしい
- ・凡例や解説に漏れや不十分な点、書式が不統一な箇所がある
- ・各資料の出典 URL(書物よりも便利)を掲載すると便利

(その他、要望等)

- ・海沿いの防砂林についての記載も載せてほしい
- ・小学生向けに優しくわかりやすいものも作ると子供の理解が深まると思う
- ・教材にも使える。学校に一冊ずつでも配布してもらえると教育効果も高い
- ・パンフレットの本州版、北海道版があれば欲しい

【総括】

本パンフレットについても、写真を多用し文字数を抑えた結果、おおむね好評を得まし

た。内容も適度に詳しくまた多岐にわたっていることから教材用としたいという声が多く聞かれました。

生物多様性については、普段意識しない森林からの生態系サービスについて知見を得たという声が多かったです。また、人間活動の縮小や、外来種やシカ等直接的な人間以外の要因による多様性の低下を憂慮するコメントが多く寄せられました。

内容について評価を得る一方、こうした資料が容易に手に入らないことについての広報不足、国際森林年や生物多様性という用語の中身が現在も一般にはほとんど浸透していないといった点が指摘されました。

設問 その他

問 その他、国有林や森林・林業全般に対する意見、要望等

【主な意見】

(モニター会議、国有林モニターの運営に関する意見、感想等)

- ・平日開催のモニター会議には出席しづらく、土日や祝日開催を検討してもらいたい
- ・抽選に外れ現地見学会に参加できなかったことが残念。一番重要な課題なのだから、希望者全員が見学できるよう再度企画してもらいたい
- ・今回のような会議を定期的を実施し、森林の重要性をPRしていくことはとても大事
- ・森林組合の顧問をしているが、資料等は組合長や組合員にも回覧している。様々な団体にも配布し取組を伝えることが重要
- ・毎月広報九州を送ってくれるのは参考になる
- ・今年は災害が多く、人間の考え方が問われた年。様々な分野の人々が携わり、力やお金を出し森林に感謝していきたい
- ・「九州の森林・林業の現状と課題」の年齢配置のグラフには衝撃を受けた
- ・普段森林に携わっている人々への一層の支援を行わないと荒れた森林が増えてくる
- ・資料やアンケートを通じて徐々に国有林野林業がとても身近で大切なものだと思うようになった。テレビ、新聞等でも報道されると反応するようになった
- ・モニターの期間を最低2年にしてもらいたい

(イベント、広報について)

- ・歴史や人物との関連からも森や林を捉えられるようにしたら、興味がわくと思う
- ・森林について知るだけでなく、一歩進んで参加するきっかけづくりが必要
- ・国有林野自然休養林への足を運び入れる機会としてツアーを計画的に組んでももらいたい
- ・保護の中身は一般には知られていないので、啓蒙活動して欲しい
- ・「あなたの町の国有林」に掲載されている地図では、国有林の具体的な所在や境界がほとんどわからないのもっと大縮尺の地図がほしい
- ・広報活動の充実が必要
- ・企業のテレビCMでロゴを見たが、国際森林年であることは一般に認知されていない

(追加の質問等)

- ・植樹祭や森林ボランティアなどに参加したいので、局署のイベントがあれば知りたい
- ・森林の7割を占める私有林(組合加入有無)、市町村有林等について、それぞれが占める割合、現状、取組を知りたい
- ・全国の国有林についても知る機会があったらよい
- ・森林に携わっていない人が簡単にできる森林を守る手段があれば教えて欲しい
- ・海岸防災林や陸前高田市で残った一本松についての記事を載せて欲しい
- ・間伐材を利用した製品や取組などをトピックとして紹介してほしい
- ・「木になる紙」のファイル、コピー用紙の入手方法を知りたい
- ・シカやクマ、イノシシ、サル等の野生動物の被害の状況を知りたい
- ・スギやヒノキの花粉対策について教えてもらいたい
- ・コンテナ苗について、入手方法、樹種、値段等について詳しく知りたい
- ・過去の文献(入会文書、写真等)の保管状況や閲覧(学術利用)の可否を知りたい

(国有林の管理経営に対する意見等)

- ・林野行政はこれまでの失敗に対する責任感が希薄。今後は「国の山」でなく「国民の山」という意識で取り組んでもらいたい
- ・森林が治山治水、水源かん養、癒しの場であることを今以上にPRし領土保全に務めてもらいたい
- ・森林・林業再生の上で取り組むべき課題が多方面なのはわかるが、最重要事項を毎年1つか2つに絞って推進してもらいたい
- ・「循環利用林」という区分はわかるが「水土保持林」と「共生林」の最大の違いが何にあるのかわからない。公益林でまとめてもいいように思われる
- ・局で職員を対象とした研修を実施する場合、森林組合の職員も参加させてもらいたい
- ・身近な国有林とするために、施業現場についても定期的に一般開放して欲しい
- ・間伐材をバイオマスエネルギーとして利用する方向性を示し局も取り組んでほしい
- ・福島原発の廃棄物の処理に森林が使われようとしているが保全が必要
- ・山の高い部分は天然更新、低い部分で造林を行えば、森林資源は豊かになる
- ・森林管理署とモニターが連携して、幅広い国民に森林浴の効果や魅力などを伝える取組をしたいと思うが、署に問い合わせても反応が芳しくない

【総括】

国際森林年であることを踏まえて、全体的に一層の啓蒙や広報活動を求める意見が多数を占めました。広報媒体の内容よりも、いかに一般の人が手に取れる場所にそれらを配置するか、実際に森林に赴くイベントを企画するかといった点が課題として指摘されました。

行政取組に関する情報収集について、配付した資料やパンフレットに掲載されていた内容に関心を抱いた際に、更に詳しい情報や他局・全国の状況について情報を得る方法がわかりにくいという回答も見られました。九州圏内の国民にとっては、九州森林管理局や各

森林管理署が身近な窓口であることから、そうした場所から他局や全庁的な取組についての資料や情報を得られる、または情報提供箇所までの案内が求める声がありました。

森林・林業行政については、民国一体となって森林整備や業務改善に向かって進んでいくべきという意見が多く寄せられました。現在の取組についておおむね評価する声が多かったものの、入札方法や対応など「お役所仕事」的な体質の改善を求める意見も併せて見られました。